

探究的な学びを支える持続可能な組織の作り方

登本洋子先生 (東京学芸大学准教授)

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

<http://smizok.net/>
E-mail mizokami@toin.ac.jp

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長(2020-2021年)。京都大学博士(教育学)。

*詳しくはスライド最後をご覧ください

※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています

(ご紹介)

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 准教授



登本 洋子
のぼりもと ようこ

玉川学園高学年（中3～高3）教諭・情報科教科主任、桐蔭学園中等教育学校/高等学校教諭・探究統括主任を経て現職

東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了、博士（情報科学）、探究的な学習および情報教育について研究

著書に『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』（玉川大学出版部、2014年）など

文部科学省 高等学校情報『情報Ⅰ』授業・研修用コンテンツ
情報を学ぶ高校に贈る！メッセージ「情報Ⅰを学ぶ魅力、楽しさを伝えたい！」「オリジナルAIをつくろう！」
GIGAスクール構想 × 探究学習



第4回

高校学びフォーラム

無料

組織的な探究活動をデザインする

8/21

2023
Mon.

9:30-15:00

9:00受付開始

主旨

2019年度より先行導入され、4年が経過した高校における『総合的な探究の時間』は、ついに卒業生を送り出し始めた。その成果は多岐にわたり、豊かな実践事例として報告がされている。第4回学びフォーラムは探究のカリキュラムに注目し、組織的に1年生から3年生まで、どのように探究活動をデザインするのか、またその活動を支える組織はどのようなものなのかについて、基調講演、県内の実践報告を通して、フロア全体で議論を行う。

事前動画

事前動画を参加者限定で公開します。申込者への配信を予定しておりますので、当日までご覧ください。



森 朋子
桐蔭横浜大学
学長



佐藤 豊
桐蔭横浜大学
スポーツ科学部 教授

開催概要

対象	神奈川県を中心とした首都圏の高校関係者 <small>(企業、大学関係者の方はご遠慮ください。)</small>
定員	300人
会場	桐蔭横浜大学 1号館 307教室
会費	無料 (お弁当付き)
申し込み お問合せ	申込・問合せフォームより、お申し込みください。 お問合せも同様のフォームからお願いたします。
	申込・問合せフォームURL https://forms.gle/jWPaICVFKVPGeRE16
締切	2023年8月16日(水)12:00まで <small>(お申し込み締切後の変更、キャンセルはできません。)</small>

MAP



- 東急田園都市線「市が尾駅」「青葉台駅」、小田急線「神奈川駅」よりバスをご利用ください。
- バス停「桐蔭学園前」もしくは「桐蔭学園」下車です。



プログラム

9:00	開場
9:30	オープニング
9:35	基調講演 探究的な学びを支える持続可能な組織の作り方 登本 洋子 東京学芸大学 准教授
11:00	実践報告① 総合的な探究の時間と教科指導の往還を目指した実践とは ～学校教育活動を“探究的”にするために～ 久保田 正芳 神奈川県立光陵高等学校 総務教諭
	実践報告② 総合的な探究の時間を軸とした「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム開発 小林 幸宏 神奈川県立横浜瀬谷高等学校 校長 黒崎 洋介 神奈川県立横浜瀬谷高等学校 教諭
	実践報告③ 「問いつづけ、学びつづける探究」のデザイン ～一だれもが主役になれる探究活動を目指して～ 川妻 篤史 桐蔭学園中等教育学校 校長補佐
12:10	ランチ交流タイム
13:20	シンポジウム 組織的な探究活動をデザインする シンポジスト 登本 洋子、久保田 正芳、小林 幸宏、黒崎 洋介、川妻 篤史 モデレーター 溝上 慎一 桐蔭学園 理事長 桐蔭横浜大学 教授
15:00	閉会
15:00	事後交流会 フリーセッション 登壇者と自由に交流することができます。
16:00	



登本 洋子
東京学芸大学 准教授

東京学芸大学 先端教育人材育成推進機構 准教授、玉川学園高等学校(中3～高3)教諭、桐蔭学園中等教育学校/高等学校教諭・探究統括主任を経て現職。東北大学大学院情報科学研究科博士課程修了。博士(情報科学)。著書に『学びの技 14歳からの探究・論文・プレゼンテーション』(玉川大学出版部)など。



久保田 正芳
神奈川県立光陵高等学校
総務教諭



小林 幸宏
神奈川県立横浜瀬谷高等学校
校長



黒崎 洋介
神奈川県立横浜瀬谷高等学校
教諭



川妻 篤史
桐蔭学園中等教育学校
校長補佐

主催：桐蔭横浜大学 共催：神奈川県教育委員会



学校法人 桐蔭学園
桐蔭横浜大学

〒225-8503 神奈川県横浜市青葉区飯野 1614 番地
電話：045-972-5881 (内線)

申込・問合せフォーム



講演テーマ

「探究的な学びを支える持続可能な組織の作り方」



<ポイント>

- 探究的な学習を行うことを学校の目標とする
- 生徒が主体的に取り組むことができる環境を整える
- 各教科と「総合的な探究の時間」を両輪とした展開

それではご覧ください

探究的な学びを支える持続可能な組織の作り方のポイント

1. 探究的な学習を行うことを学校の目標とする

- ・「どのような生徒に育ててほしいか」を明確にして共有する。
- ・校長や管理職の先生のリーダーシップも重要。
- ・「総合的な探究の時間」は担当教員の負荷が高くなるように配慮し、持続可能な取り組みになるようにする。

2. 生徒が主体的に取り組むことができる環境を整える

- ・生徒の興味関心や探究に向き合う姿勢を引き上げていく。
- ・一人でも多くの生徒が没頭して取り組めるようにする。学びの主体は生徒。
- ・成果よりも問題解決のプロセスを重視する。
- ・学び方を学ぶ一生徒が自分でつかみとる学びへ。

3. 各教科と「総合的な探究の時間」を両輪とした展開

- ・単元や学年、3年間を見通した展望を生徒と共有する。
- ・教員が探究するわけではない。説明して満足する授業からの脱却。
- ・教員が体験したことがない授業が求められている。研修が必要。教科を超えた組織作り。
- ・教科や分野の魅力を伝えることも大切。各教科は探究のタネの宝庫。